

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイのラーバが増加しています

1 ラーバ等の出現状況

令和5年1月30日から2月7日にかけて陸奥湾内4地点において付着生物ラーバ等の調査を行いました。調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) キヌマトイガイ (通称: コメガキ)

ラーバは奥内沖で2月4日に31.7個体/m³、野辺地で2月6日に4.7個体/m³、久栗坂沖、川内沖で1月30日にそれぞれ20.6個体/m³、850.0個体/m³、2月7日にそれぞれ116.1個体/m³、407.0個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは見られませんでした (表1、図3)。

(3) ミネフジツボ

ラーバは久栗坂沖、川内沖で1月30日にそれぞれ1.7個体/m³、4.7個体/m³、2月7日にそれぞれ2.8個体/m³、3.9個体/m³見られました (表1、図4)。

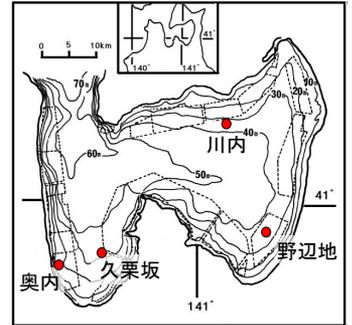


図1 ラーバ調査地点

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキガイ	ミネフジツボ	マボヤ	
							ラーバ	卵
奥内沖	R5.2.4	0.0	0.0	31.7	10.8	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R5.1.30	0.0	0.0	20.6	12.8	1.7	0.0	0.0
	R5.2.7	0.0	0.0	116.1	21.7	2.8	0.0	0.0
野辺地沖	R5.2.6	0.0	0.0	4.7	1.6	0.0	0.0	0.0
	R5.1.30	0.0	0.0	850.0	51.6	4.7	0.0	0.0
川内沖	R5.2.7	0.0	0.0	407.0	37.5	3.9	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

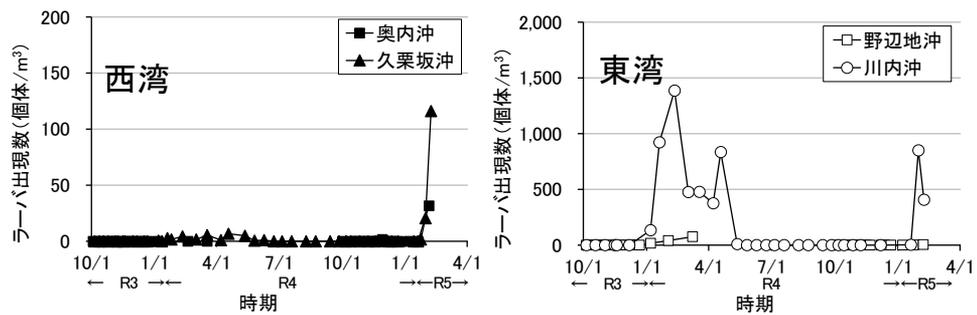


図2 キヌマトイガイラーバ出現数の推移 (令和3年10月~令和5年2月)
・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 915個体/m³、東湾 4,483個体/m³

2 今後の見込み

キヌマトイガイのラーバ出現数が増加していることから (図2)、今後、**籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加する**ものと思われます。

ユウレイボヤは例年10月から12月にラーバが出現し、日平均水温が8°C未満になると出現しなくなります。今季は10月から2月までほとんど出現しておらず (図3)、ラーバ累積出現数が少ないことから、現時点では今春の半成貝出荷時のネットへの付着量は少ないことが予測されますが、**東湾では出現数が少なくても春の付着量が多くなる年がある**ので注意が必要です。

ミネフジツボの付着直前のラーバが出現しており (図4)、今後付着が進むと思われます。

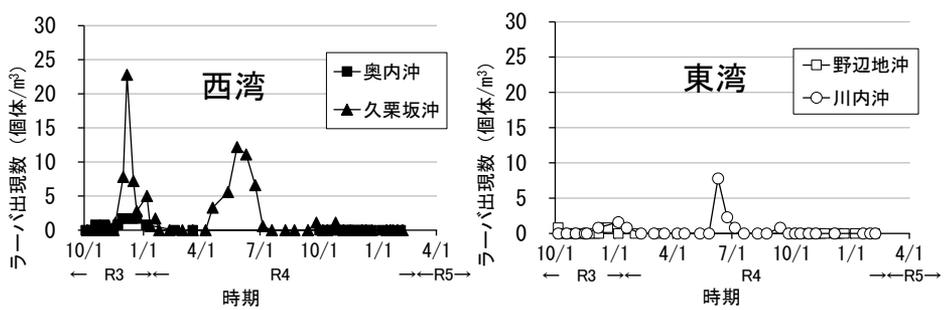


図3 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月~令和5年2月)
・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

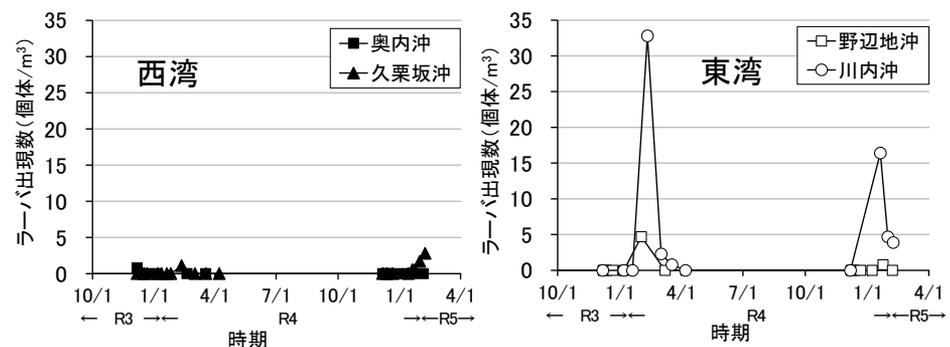


図4 ミネフジツボラーバ出現数の推移 (令和3年10月~令和5年2月)
・令和2年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 27個体/m³、東湾 33個体/m³

